モンツァで迎えるシーズン最終戦
超高速サーキットを舞台に繰り広げられるタイトル争い





今週末（11 月 6〜8 日）、イタリアで各タイトルの行方が決まる。2026 年シーズン最後の戦いに臨む FIA 世界耐久選手権（FIA WEC）の参戦チームとドライバーたちは、伝説的なサーキット、アウトドローモ・ナツィオナーレ・モンツァを攻略し、栄光を懸けたハイスピードかつ熾烈なバトルに挑む。

ミラノの北に位置する王立公園の敷地内に、100 年以上前に建設されたモンツァは、世界で 3 番目に古い専用モーターレーシングサーキットであり、ヨーロッパ大陸では最も古いサーキットでもある。国際耐久レースの最高峰カテゴリーとは 60 年以上にわたる長い歴史を持ち、ジョン・サーティース、マリオ・アンドレッティ、ジャッキー・イクスといったモータースポーツ界の偉大なドライバーたちが勝利を収めてきた。

「スピードの殿堂（**The Temple of Speed**）」として知られるモンツァは、長年にわたり幾度もの改修を経てきた。現在のコースレイアウトは全長 5.793km、11 のコーナーで構成され、長いストレートとタイトなシケインが組み合わされている。空力効率、トラクション性能、そしてブレーキング時の安定性が重要となるレイアウトだ。

FIA WEC は 2021 年から 2023 年まで、3 年連続でモンツァを訪れている。直近の開催となった 2023 年には、12 種類の異なる車両モデルが参戦したが、世界選手権としての勢いと成長を示すように、今週末はその数が 17 種類に増加する。

今大会には地元イタリア出身のドライバーが 11 名参戦する。また、今シーズン、イタリアは 2 つの異なるサーキットで FIA WEC を開催する初めての国となり、同時にシーズンカレンダーの開幕戦と最終戦の双方を開催する国となった。2019 年以来、初めてヨーロッパでシーズンを締めくくる大会でもある。

ハイパーカーメーカーズタイトルはすでにトヨタが獲得しているものの、モンツァ 6 時間レースでは、さらに 3 つの栄誉あるタイトルが懸けられている。2026 年シーズンを締めくくるにふさわしい、白熱の最終決戦が期待される。

ハイパカードライバーズタイトルを懸けたトヨタ勢同士の直接対決

前戦スペインで圧倒的な 1-2 フィニッシュを飾ったトヨタは、メーカーズタイトルを確定させた。しかし、ハイパカードライバーズ世界選手権のタイトル争いは、依然として決着していない。

バルセロナ戦で優勝した#8 のセバスチャン・ブエミ、ブレンドン・ハートレー、平川亮のトリオが、同じトヨタの#7 を駆る小林可夢偉、マイク・コンウェイ、ニック・デ・フリースに対して 17 ポイントのリードを築いている。

今大会で獲得できるポイントは最大 26 ポイント（優勝 25 ポイント、ポールポジション 1 ポイント）のみであり、#8 の 3 名がタイトル獲得に向けて明らかに優位な立場にある。ブエミとハートレーは、今回が 2 人にとって通算 50 回目となる FIA WEC での共闘レースを迎え、前人未到の 5 度目のタイトル獲得を目指す。
平川とともにタイトル獲得に王手をかけている 2 人だが、モンツァでの実績という点では、#7 のトヨタに大きなアドバンテージがある。
コンウェイと小林は、2021 年と 2023 年のイタリア大会で優勝したメンバーであり、いずれのレースでもポールポジションからスタートしています。また、2022 年大会では 3 位表彰台を獲得した。
小林は今回、モンツァの予選ラップレコード保持者として同サーキットに戻ってくる。一方、今大会で前例のない通算 75 回目のコンビを組むことになる英国人ドライバー、コンウェイにとっては、モータースポーツのヘルメットを脱ぐ前の最後のレースとなる。彼は今大会をもって現役生活に別れを告げる。果たして、3 度目のドライバーズタイトルを手にしてキャリアを締めくくることができるだろうか。
ライバル勢にとって不気味な記録となるのが、トヨタが 2017 年以降、FIA WEC のシーズン最終戦で 8 戦連続優勝を飾っていることだ。しかし、今週末は熱狂的なティフォシの声援を受けるフェラーリが、とりわけその連勝記録を止めようと意気込んでいる。フェラーリはシーズン開幕戦のイモラで、日本のライバルであるトヨタに僅差で敗れており、その雪辱を果たしたいところだ。
跳ね馬にとって、2026 年シーズン 2 度目の母国レースであることに加え、苦しいタイトル防衛戦となった今シーズンを、好結果で締めくくりたいという思いも強い。
フェラーリ 499P は、2023 年のモンツァ初参戦で表彰台を獲得している。また、同ブランドのハイパカードライバー6 名のうち 5 名、ジェームス・カラド、アントニオ・フォコ、アレッサンドロ・ピエール・グイディ、ミゲル・モリーナ、ニクラス・ニールセンは、過去に GT カテゴリーで同サーキットの表彰台に立ち、シャンパンファイトを経験している。通算 70 回目の FIA WEC 参戦を目前に控えるピエール・グイディは、同サーキットにおける GTE Pro クラスの最速ラップ記録保持者でもある。
メーカーズランキングで 2 位につける BMW は、両クラスを通じて、これまで FIA WEC としてモンツァでレース経験がない 6 メーカーのうちのひとつだ。ドイツ・バイエルンを拠点とする同ブランドは、最近の不本意な戦績からの巻き返しを図り、表彰台獲得を目指している。
そのほか、アルピーヌは FIA WEC での 80 戦目にして最後のレースを、華々しい結果で締めくくろうとしている。
アルピーヌを象徴する#36 は、2021 年大会で 2 位に入った後、2022 年大会ではモンツァで優勝を飾った。今回の最終参戦は、奇しくも同ブランドにとってハイパーカーでの通算 36 戦目となる。
一方、同じフランスのメーカーであるプジョーは、2022 年にモンツァで FIA WEC デビューを果たし、その 12 カ月後には 9X8 ハイパーカーで同サーキット初の表彰台を獲得している。

好相性のモンツァで LMGT3 初タイトルを狙うコルベット

「スピードの殿堂」は、これまでコルベットにとって相性の良いサーキットとなってきた。
2022 年大会では、残りわずか 2 周というタイミングでフェラーリが給油のみの緊急ピットストップを行ったことで、アメリカのコルベットが LMGTE Pro クラスの優勝を獲得した。さらに翌 2023 年には、#33 が LMGTE Am クラスのタイトル 2 戦を残して、確定した。これは FIA WEC 史上、最も早いタイトル獲得記録となった。
現在のドライバーラインアップであるニッキー・キャッツバーグとベン・キーティングは、当時のタイトル獲得メンバーでもある。今週末は、シーズン序盤に一部のレースを欠場したオランダ人ドライバーとアメリカ人ドライバーに代わり、#33 のチームメイトであるジョニー・エドガーが、単独での LMGT3 ドライバーズタイトル獲得に王手をかけている。

キーティングはモンツァでポールポジションを獲得した経験はある。また、TF Sport はこれまで同サーキットで開催された 3 戦すべてにおいて、クラスのフロントローからスタートしている。
ただし、今シーズンはどのカテゴリーにおいても、ポールポジションから優勝した車両がまだいない。この傾向を踏まえると、今週末も予選結果が必ずしも勝利の鍵になるとは限らない。
モンツァ大会は、シボレーにとって FIA WEC 通算 80 戦目となる。一方、最大のライバルであるポルシェにとっては、さらに記念すべき節目となる。
GT 仕様のバリエーションを合計すると、ポルシェ 911 は FIA WEC で前例のない通算 500 回目のエントリーを達成する。ドイツのスポーツカーは、これまでモンツァで一貫して優れた成績を残してきた。実際、前回の FIA WEC 開催時には、ポルシェが LMGTE Am クラスの表彰台を独占していた。
そのレースで 3 位に入ったのは、地元イタリア出身のリッカルド・ペラだった。これは、2 年前に 2026 年の The Bend 大会で同じマンタイ・チームのチームメイトであるリヒャルト・リーツが LMGTE Pro クラスで獲得した 3 位表彰台に続く結果だった。
豊富な経験を誇るオーストリア人ドライバーのリーツは、先日、LMGT3 で史上初となる通算 5 勝を達成した。そしてモンツァでは、**バルセロナでブエミ**が達成したに続き、FIA WEC 通算 100 戦出場を達成する史上 2 人目のドライバーとなる。
2024 年に創設された市販車ベースの LMGT3 クラスで、今回はモンツァ初開催となる。ポルシェの強豪チームであるマンタイは、初参戦のサーキットでいきなり勝利を収めることを得意としてきた。
ランキング首位の TF Sport とエドガーに対して 18 ポイントのビハインドを背負うペラ、リーツ、ヤセル・シャヒンの 3 名は、マンタイに 3 年連続となる LMGT3 タイトルをもたらすため、再び大きな結果を残す必要がある。
3 名にとって心強い材料となるのは、同じカーナンバー#92 を付けたポルシェが、2021 年のモンツァ初参戦時に LMGTE Pro クラスで優勝を飾ったことです。
コルベットは、#34 の Racing Team Turkey by TF が依然としてタイトル争いに残っており、2 台体制でタイトル獲得の可能性を持っています。
一方、4 番目にして最後のタイトル候補である#69 BMW は、逆転でタイトルを獲得するためには完璧な週末を過ごすことに加え、ライバル勢に深刻な不運が訪れる必要がある。
仮に BMW がタイトルを獲得すれば、ル・マン 24 時間レースで一度もポイントを獲得することなく、いずれかのカテゴリーでチャンピオンに輝くという、FIA WEC 史上初の事例となる。

大会スケジュール

サーキットでの走行セッションは、11 月 6 日（金）のフリープラクティスで幕を開ける。
11 月 7 日（土）は、14 時 20 分（中央ヨーロッパ時間／UTC+1）から予選および上位 10 台によるハイパーポールが行われる。そして 11 月 8 日（日）11 時 00 分（中央ヨーロッパ時間）に、6 時間の決勝レースがスタートする。モンツァ 6 時間レースの大会スケジュールやエントリーリストを含む詳細情報は、以下から確認できます。**エントリリスト**と**モンツァ 6 時間レース 2026 大会公式情報**

FIA WEC のすべてを、耐久レース最高峰の戦いのすべてを。
FIA 世界耐久選手権の公式ストリーミングプラットフォーム「FIAWEC+」では、伝説のル・マン 24 時間レースを含む FIA WEC の全レースを、世界中どこからでも、好きな時間にライブおよびオンデマンドで視聴できます。FIAWEC+で FIA WEC のライブ配信を視聴しよう。

ROLEX TotalEnergies MICHELIN DHL GOODYEAR CROWDSTRIKE MOTUL BOSCH